

高度経済成長期に建てられ、今や入居者の高齢化が進むマンモス団地。これを「再生」させようと、若い大学生が立ち上がるケースが首都圏で相次いでいる。高齢者の話し相手をする交流拠点を開設したり、団地のイベントの裏方に回ったりと学生の活動はさまざま。住民にも好評で、団地に活気が戻ってきている。

(村上智博)

団地に活気 若さで再生

東京都板橋区の高島平団地。団地の自治会役員、林貢さん(68)によると、昭和40年代末には入居者は2万5000人にのぼった。当時は廊下で子供がはしゃぎ回り、笑い声に包まれていたという。

しかし、子供は成長して団地を離れ、今では7700世帯の3分の1が70歳以上。10年ほど前からはシャッターを閉じた店舗が目につき、5年前には空き部屋も500カ所を数えた。

その高島平団地の空き部屋13室に、今春、近くの大東文化大学に通う16人の地方出身の若い学生や留学生が入ってきた。

大学は数年前、高島平の街に元気を取り戻すプロジェクトを地元の有志らと始動。学生の入居はプロジェクトの一環だ。大学が都市再生機構から13室を借り上げ、学生に提供した。大学に近く、学生に快適な住環境を与えたいたい大学と、若い力を得て街の再生を図りたい地元の思いが合致した。

大東大3年の長島良太さん(20)は1DKの1室を借りた。家賃は光熱費込みで4万5000円と相場より安い。団地の住民と触れ合う活動への自発的な参加が入居条件だった。

学生らは団地商店街の空き店舗を利用し、住民との交流拠点「コミュニティーカフェ」をオープン。毎週、高齢者らを対象に絵本の読み聞かせなどイベントや教室を行っている。今夏にはカフェにミニFM局を開設し、団地のイベント情報を流す予定だ。

長島さんはカフェで英会話教室を担当。18日には子育てを終えた独り暮らしの女性ら9人に単語の発音練習をした。参加した主婦、貝吹信子さん(65)は35年前、団地に入居。「教室は面白く、刺激を受ける。若さで街の雰囲気を明るくしてほしい」と目を細める。

長島さんは「今後は独り暮らしの高齢者の部屋を回って声をかけるなど役立ちたい」と話す。高島

高齢化が進んでいる高島平団地
=東京都板橋区



高島平 学生や留学生入居： 交流力フェエでイベ ント

平以外でも、大学生による団地再生の動きは各地で見られる。

多摩ニュータウンで最も古い識訪地区の団地(多摩市)では昨年7月、近くの法政大学現代福祉学部(町田市)の地域づくりゼミの学生らが集結。一昨年に中止になった地域の七夕イベントを復活させた。国士館大学のウェルネス・リサーチセンター(多摩市)は団地の一角にできた交流スペースに昨年度から毎週、学生を派遣。地元のNPO法人と一緒に体力測定を実施するなど、入居者の健康作りに一役買っている。

千葉県松戸市の常盤平団地では、昨年夏に開いたアートイベントに千葉大学園芸学部の学生ら30人が舞台作りなどの応援にかけつけ、会場を盛り上げた。

多摩ニュータウンと周辺大学との橋渡し役を務めた片桐徹也・多摩大客員准教授(40)は「団地再生には行政と民間、大学とをつなぎ、コントロールできる拠点作りが必要だ。学生は地域の大切な資源。ほかの団地でも、この資源を活用する仕組みができれば再生は可能」と話している。



団地のカフェで学生と英会話を楽しむ入居者ら

=18日、東京都板橋区の高島平団地